

現地に立ち、フクシマの現実を学びました！

第8回グリーンジョブ研修フクシマ開催！



昔は米や塩を運んでいた小名浜港でしたが、常磐炭鉱発見以降、「石炭積出港」となりました。現在は、海外からの石炭積上港」となっています。エネルギー施策に振り回されていることが分かります。



とみおかワイナリーの遠藤代表から講演をいただき、「先義後利のもと、本質を深堀することが大切であること」が訴えられました。



常磐線・夜ノ森駅前と大野駅前の復興の様子を比較。



10月5日から2日間、グリーンジョブ研修フクシマを開催しました。小名浜工業地帯では、常磐線と常磐炭鉱の歴史について学び、鉄道とエネルギーは密接に関わっていること、福島県のエネルギーの歴史を紐解くと、高度経済成長期を支える首都圏へのエネルギー源であり、震災以降は電力不足を補うため二酸化炭素排出量低減の火力発電が稼働するなど、国のエネルギー施策に振り回されている様子を実感しました。

また、東日本大震災によって地震・津波・原発事故からの復興の様子や現状を見学し、「地域のまちづくり」として奮闘している「とみおかワイナリー」の遠藤代表から「ワインを通じた100年先の地域づくり」や「地域が抱える課題解決」に向けて講演をいただきました。

意見交換では、「現地に立って改めて現実を知った」「エネルギーという国策で街が壊され、国策によって復興を進めるやり方は、昔と変わらない」「イノベーションコースト構想に、利権争いが絡んでいることは思わなかった。真実を見ること、養う力をつけなければならない」など、活発な議論が行われました。